

東京新聞・望月衣塑子記者の質問

写真の首相官邸の記者会見が、メディアを大きく揺るがす問題になっている。『世界』3月号の南彰「記者の連帯がなぜ必要か」から、記者会見の様子を再現したい。

今年1月18日。沖縄名護市辺野古への米軍新基地建設の是非を問う住民投票をめぐり、不参加を表明した自治体に対し、若者が抗議のハンストをしたことなどを問いただした場面が象徴的だ。



望月記者「辺野古埋め立てでお聞きします。沖縄防衛局が埋め立て土砂単価を県内の良質な石材の倍以上の…」

官邸報道局長（質問開始8秒後）「簡潔をお願いします」

望月記者「…1立方メートルあたり1万円以上と見積もり業者に発注していたことが判明しました。防衛省内規では工事の材料単価は…」

官邸報道局長（同16秒後）「簡潔をお願いします」

望月記者「…原則3社以上から見積もりをとるようになっていますが、1社だけの見積もりを採用しています」

官邸報道局長（同24秒後）「簡潔をお願いします」

望月記者「赤土の投入疑惑に続き、これもやはり問題ではないでしょうか？」

菅官房長官「適切に対応しているということです」

官邸報道局長「この後日程があるので最後をお願いします」

望月記者「関連して、沖縄5市の県民投票拒否についてお聞きします。署名を集めた27歳の元山さんが…」

官邸報道局長（2問目開始8秒後）「簡潔をお願いします」

望月記者「…署名した10万人の思いを無にしたいくないと宜野湾市役所前で抗議のハンストを15日から始めております」

官邸報道局長（同16秒後）「結論をお願いします」

望月記者「5市の投票不参加は、法の下での平等に反しますが、若者がハンストで抗議の意を示さざるを得なかったこと…」

官邸報道局長（同23秒後）「簡潔をお願いします」

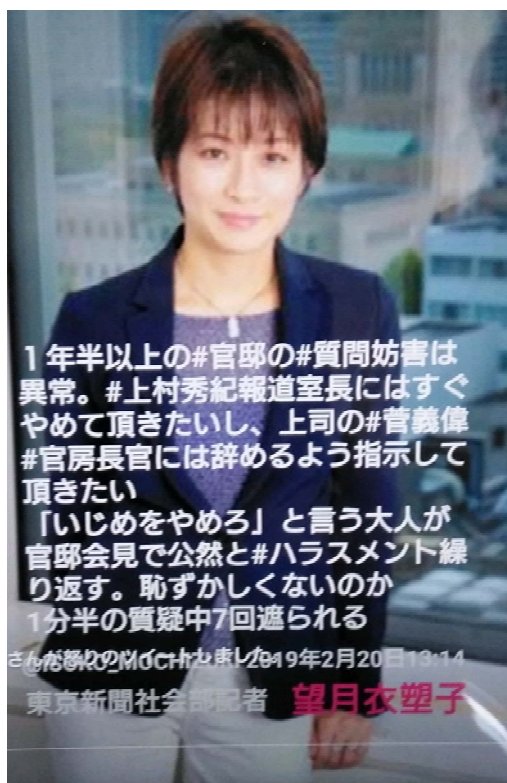
望月記者「この状況について政府の認識をお聞かせください」

官房長官「その方に聞いてください」

この2問にかかった時間は答弁を入れても1分あまり。司会役の官邸報道局長はほぼ8秒おきに「簡潔にしてください」などと呼びかけているが、他の質問者が30秒を超える質問をしても、そうした注意を促すことは基本的にない。個人を狙い撃ちした質問妨害だ。菅氏は質問を聞きながらせせら笑い、報道室長をちらちら見ながら、全く答弁

の体をなさない言葉だけを言い残して立ち去っていくのである。

写真は 20 日に見つけた望月記者の投稿。「1 年半以上の官邸の質問妨害」「1 分半の質疑中 7 回遮られる」などと。公開されているユーチューブで記者会見を見ても、公然とハラスメントが繰り返されているのがわかる。



(2019 年 2 月 23 日)